

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・接待、法事や慶事等、人の集まる機会が増えている。
	◎	その他サービス [葬祭業] (経営者)	お客様の様子	・今月は粉骨の依頼が非常に多く、永代供養墓の依頼も多かった。
	○	百貨店 (店長)	来客数の動き	・久しぶりの物産展催事が好調で、来客数の増加を実感している。
	○	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・例年、夏休み明けで落ち着いた月ではあるが、今年の9月は3連休や人によっては4連休で、非常に人の流れが多かった。また、天候が安定したことや、気温が落ち着いてきたこともあり、更に人の流れが増加したようである。
	□	商店街 (代表者)	販売量の動き	・客は食べ物に出費をしているようで、スポーツ用品を販売している当店では、売上にかなり響いている。どうにも履けなくなったとかなくしてしまったとか以外は、履き替えて買うという客がほとんどいない。
	□	スーパー (経営者)	来客数の動き	・来客数などから見て、消費は堅調のようである。
	□	スーパー (経営者)	販売量の動き	・前年比では売上は5%増加、来客数は4%減少となっている。4月から病院向けの外販が増えているが、税理士から5月は単月で利益が出ていると報告があり、実感はないが気分的には非常に嬉しい。毎月利益が出ることに期待している。10月上旬に近隣に大型ショッピングセンターがオープンする。当店にどのような影響が出るか予想もできないが、良い方向になることを期待している。
	□	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・寒い時期に向かうため、来客数的に伸び悩んでいる。物価高もあり、売上は余り良くない。
	□	コンビニ (経営者)	お客様の様子	・節約している様子が見受けられる。目的買いが多く、不要な物は買わない。
	□	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・来客数は増えているものの、客単価が上がらない。買上点数を抑えているようにもみえる。
	□	コンビニ (店長)	販売量の動き	・イベントが急にあったので、何とか売上を保っている。日々の売上もようやく前年並みを維持してきたため、2～3か月前と比べても余り変わっていない。
	□	家電量販店 (店長)	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車販売が停滞している。新型イベントを前に、客の動きも慎重になっており、来場者数も少ない。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・車検、一般整備は目標をクリアしている。また、猛暑の影響でエアコン関係の修理もあり、プラスアルファとなっている。車両販売は、物価高に歯止めがかからない状況から、車の購入を控えて、何とか修理で対応する客が多くなっている。
	□	自動車備品販売店 (従業員)	お客様の様子	・来客数は減少傾向のままだが、タイヤの値上げもあり、客単価は上がっている。
□	その他専門店 [酒] (店長)	販売量の動き	・売上自体は3か月前と比べて、前年比を大きく上回っているが、価格転嫁がかなり進んでいるため、前年や3か月前と単純には比較できない。米価やそれに伴う日本酒の原材料の価格転嫁も多少あり、運賃等の値上がりも続いている。売上は伸びているものの、販売量の動きを見ると変わらない。	
□	旅行代理店 (副支店長)	販売量の動き	・販売量の減少や物価高で、旅行への支出を控えてきている。	
□	タクシー運転手	販売量の動き	・1年前と比べると、今月の売上は85%である。理由としては、乗務員が1年前より25%減っているためである。人数が減っていることで、1人当たりの売上は1割増えているが、やはり乗務員の人数が足りない。	

	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・基本となるテレビやインターネットサービスは、販売量自体に特段変化はないものの、新しいオプションサービスへの問合せは増えているため、顧客当たりの単価が今後変化する可能性はある。
	□	観光名所（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前の入込客数には迫っているものの、国内団体客が伸びない。貸切バスについて、運転手の改善基準告示により、日帰りであられた近県からのツアー設定が極端に減少している。ツーマン運行によるツアー代金の値上げも影響している。
	□	遊園地（職員）	来客数の動き	・月初めの台風接近に伴う悪天候や多くの集客を予想していたイベントの開催日が雨天となった影響で、大きな伸びはみられなかった。
	□	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・株価上昇でもうかっている顧客がいるのも事実である。
	□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・9月になっても暑い日が続く、大学生はまだ休みのため、平日もにぎわっている。前年は3連休だった秋分の日が、今年は飛び石の休日であった分、前年比では売上は落ちている。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・9月に入っても暑い日が続く、来客数も伸び悩んでいる。値上げ続きで客単価は上がっているものの、買い控えをしているのか思うような売上にならない。
	▲	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・消費者の購買意欲が全くみられない。物の値上がり報道で、必要な物に対する出費を一段と控えている様子が見受けられる。
	▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・9月下旬まで続いた残暑が、実売時期の秋物衣料の販売の足かせとなっている。北海道物産展等の催事、特選ブティック、高級腕時計等は好調に推移したものの、衣料、食品の不振で、店全体では厳しい結果となっている。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高で、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・最低賃金の急激な上昇に耐えられない企業や個人事業主が出てくる。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・自転車の飲酒運転の厳罰化以降、来客数が減っている。常連客が多かったため、かなりの打撃であり、元に戻る見込みもないため、非常に困っている。
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏は猛暑で標高の高い当地への来客が多く、連日混雑していたが、気温が下がり涼しくなってきたため、来客数がかなり減っている。相変わらず、単価は高めで推移していることから、それなりに景気は良いが、夏季と比較すると来客数がかなり落ち込んでいるため、やや下降傾向である。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今月の来客数だが、6月から8月と比べて、特に8月は夏休みであったため、県内県外問わず多く、特に県外客は非常に多かった。それ以降は一服感があり、9月はかなり来客数が落ち込んでいる。8月の夏休みにお金を使ってしまい、財布のひもが固くなったようである。ディナーの数字も落ちている。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・ハイシーズンとなっても平日の集客が難しい。また、以前は食事での客単価上昇がみられたものの、最近では落ち込んでいる。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・街への人出は一段と悪く、退店する店も少なくない。
	×	スーパー（店長）	単価の動き	・物価高による値上げが続いている。新米価格が高いため、新米の勢いが弱い。備蓄米への問合せは続いており、安い商材にはニーズがあることが分かる。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	販売量の動き	・客が外出を控えている。
企業動向関連 (甲信越)	◎	*	*	*
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・見積依頼が増えたほか、見積りを提出して回答待ちだったものから注文が入るようになっている。急に動きが活発になったようである。

	○	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大型店の新規出店の出稿増に加え、近隣の同業他社も対抗出稿を行っているため、9月の出稿売上は前年比5～7%プラスになる見通しである。
	□	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・新酒の動きは若干出てきたものの、前月に続く猛暑の影響は避けられず、相変わらず苦戦が強いられている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・店頭販売品の受注は、僅かではあるが多くなっている。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	それ以外	・見積依頼が引き続き多い。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、催事の集客に苦労している。高額品も売れていない。金価格の高騰で商材価格が大幅に上昇しているため、今月の売上も前年実績を上回ってはいるものの、販売総数は低下している。マーケットが縮小してきている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量は増えており、単価も少しずつ変化している。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業の業況感は、今のところ米国の関税政策の影響は限定的だが、一部で受注に弱さもみられる。非製造業については、個人消費関連は物価高の影響がみられるものの、観光関連は底堅く推移している。
	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・特に変動はない。
	▲	*	*	*
	×	*	*	*
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(甲信越)	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・とにかく稼げないため、購買意欲がなく安い物を求める人が多い。一方で、富裕層は相変わらずの生活水準を保っている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数を前年同月比で見ると、増減はあるものの大きな動きは見られない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・米国の関税政策について品目を変えて関税を課すといった報道や原材料や光熱費の高止まり、最低賃金の引上げ等、企業収益が改善する見通しが立ちにくく、求人の増減や離職、転職の方向性が判然としない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・現場技能者の求人が増える分、開発等分野の高度な求人が減る傾向がみられる。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の令和7年8月有効求人倍率は1.27倍と、前年同月比で0.08ポイントの下降となっている。月間有効求人倍率が前年同月を下回るの16か月連続である。
	×	—	—	—